

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 いわき市立平第三中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ Ⅲ ・ Ⅳ ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	いわき市立平第三中学校 1年・193名、2年・158名、3年・195名 計 546名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目 標 (ねらい)	<p>パラリンピアンの話から、困難に打ち勝つ力や自立心、思いやりの心などを学ぶ。また、キャリア教育として、講師の生き方から将来の自分の生き方を考えることができるようにする。</p> <p>さらに、関連する授業や実践から、人々が互いの人権を尊重し合い共に力を合わせて生活する共生社会の実現を目指す。</p>
5 取組内容	<p>(1) 講演会の実施</p> <p>① 事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリンピック・パラリンピックについての事前アンケート</li> </ul> <p>② 増子恵美さん講演会 〔10/4(金) 13:50～14:50〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がいについてのお話</li> <li>・ 障がいのあるなしに関わらない共生社会 「心のバリアフリー」</li> <li>・ 夢に向かってどう取り組めば良いか など</li> </ul> <p>③ 事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリンピック・パラリンピックについての事後アンケート</li> <li>・ 講演後の振り返り</li> </ul> <p>(2) オリンピックとパラリンピックを題材とした教育プログラムの実施〔授業公開：10/11(金)、2 学年〕</p>



○ パナソニックの学び支援コンテンツを活用した授業実践

- ・ パラリンピックをテーマに、共生社会の実現のために必要なことや自分たちができていることを考えた。



(3) 車いすバスケットボール体験教室の実施  
〔11/21(木)、2 学年〕

- ・ 車いすバスケのルールや障がいの程度を配慮したチーム編成の仕組みを知る。
- ・ 講演会や授業で学んだことを、体験を通してさらに深化させ、今後の生活に生かせるようにした。



(4) 東京オリンピック・パラリンピック関連施設へ提供する木製ベンチの制作〔2 学年〕

※ 今後実施の予定

- ・ ベンチ制作を通して東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げ気運を高める。

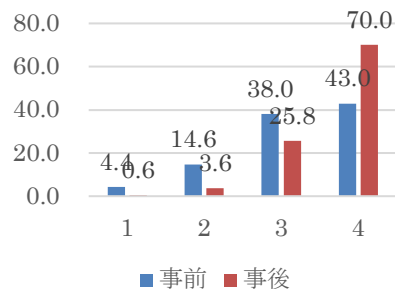
6 主な成果

(1) 講演会のアンケート調査から

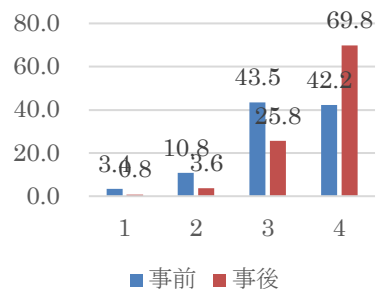
- ・ 全ての質問において、事前から事後のアンケートで良い方向に意識が変化した。

1 全く思わない 2 あまり思わない 3 だいたいそう思う 4 全くそう思う

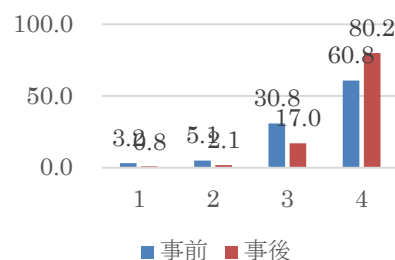
2020東京オリンピック・パラリンピックに興味がある



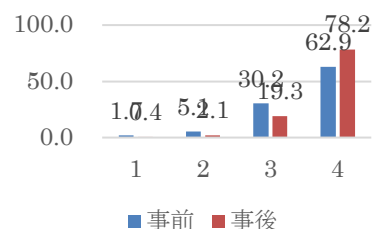
生涯を通じてスポーツに取り組むことは意義のあることである



障がいのあるなしに関わらずスポーツに取り組むことは意義のあることである



オリンピック・パラリンピックは多様な文化を受け入れ人々が互いの人権を尊重し合えるよい機会になる



	<p>東京オリンピック・パラリンピックの開催地となっている福島県民として大会を盛り上げていきたい</p> <table><thead><tr><th>Category</th><th>事前</th><th>事後</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>4.4</td><td>4.0</td></tr><tr><td>2</td><td>13.1</td><td>4.2</td></tr><tr><td>3</td><td>41.4</td><td>29.8</td></tr><tr><td>4</td><td>41.3</td><td>65.1</td></tr></tbody></table>	Category	事前	事後	1	4.4	4.0	2	13.1	4.2	3	41.4	29.8	4	41.3	65.1
Category	事前	事後														
1	4.4	4.0														
2	13.1	4.2														
3	41.4	29.8														
4	41.3	65.1														
	<p>(2) 講演会を通して、パラリンピックのことや共生社会の実現、夢を達成するために大事なことなど多くのことを学ぶことができた。</p> <p>(3) 講演会で学んだことをもとに、さらに、オリパラを題材とした教育プログラムの授業を通して、多様性と共生社会というテーマのもとインクルーシブな社会を考える機会となった。</p> <p>(4) 車いすバスケットを実際に体験することで、言葉でしか分からなかったことを肌で感じることができ、競技の楽しさだけでなく、障がい者の立場に立った考え方ができるようになった。</p>															
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) パラリンピックに4度出場し銅メダルを獲得した福島県民である増子恵美さんの講演から、オリンピック・パラリンピックについてだけでなく、共生社会やキャリア教育にもつながられるようにした。</p> <p>(2) 単発の講演会で終わらせることなく、その他の実践を関連付けることで、目的の達成が図られるようにした。</p> <p>(3) 講演会や体験教室の実施にあたっては、保護者に通知し参加を募った。</p>															
8 主な課題等	<p>○ 一つ一つの実践は大変有意義なものではあるが、教育課程の何に関連させ、何の目的で行うのかを明確にして進めていかなければならない。</p> <p>○ 当初予算だけでは、限られた実践で終わってしまう。幅広い実践となるようにするにはどうしたらよいか考えていかなければならない。</p>															
9 来年度以降の実施予定	<p>○ 今年度の経験を生かし、2020 東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高め、大会の成功に向けて気運を盛り上げていく。</p> <p>○ 今年度学んだ共生社会や困難に負けないで生き抜く力などを、校外での活動や進路指導等において生かしていけるようにする。</p> <p>○ オリンピックとパラリンピックを題材とした教育プログラムを活用し、事業の継続を図っていく。</p>															